

岸本区長の
西まち
ウォッチ



～ふだんからのつながりづくりが備えに～
地域防災力・コミュニティ力の向上にむけて

6月に大阪府北部を震源とする地震、7月には西日本を中心とした豪雨など、さまざまな自然災害が発生しており、今まで以上に災害に対する備えが必要となっています。その備えは「モノ」だけではなく、「コミュニケーション」も同じです。西区では各地域において、地域の町会をはじめとしたコミュニティで構成されている自主防災組織が中心となって、その地域の特性に応じ、工夫を凝らしながら防災訓練を実施しておられます。いざというときに備え、日頃からあいさつをしたり、地域のコミュニティに参加するなど近隣の方とコミュニケーションをとって、顔の見える関係・相互に協力できる関係を築いておくことが、より一層の安心につながるのではないのでしょうか。

自分を守り、人と助け合って
マンションの防災力UP!



堀江連合振興町会
会長

阿部 信行さん

●変わる防災、マンション在宅避難のすすめ

堀江地域は東西に広く、昨年度は2か所並行で防災訓練を実施しました。地域でも重要な取り組みのひとつです。防災訓練はこれまで「避難所開設」に重点をおいて実施してきましたが、近年は堀江地域の人口の9割がマンション住民であることから、マンション内の「在宅避難」を想定し、マンションの防災力を高めていく方向へと転換しています。

「海溝型地震が発生すれば、避難所となる堀江小学校で1.5m、西高等学校では2mの浸水が想定されており、マンションにお住まいの方は、建物の安全が確認できれば避難所に行くよりマンション内に待機することをすすめています。」(小池さん)

●地域防災リーダーによる連絡網

在宅避難を想定した訓練として、マンションに居住する多くの方に地域防災リーダーになってもらい、住民の安否状況や、建物・エレベータや各ライフラインの被害状況を把握し、堀江地域本部へ速やかに伝達する内容を取り入れています。

食料などの備蓄品は各ご家庭やマンション単位で備蓄していただくのが基本となりますが、避難が長期化した場合などは地域本部が西区災害対策本部とのパイプ役となり、救援物資の配給などを行いますので、マンションと地域本部との情報共有は大変重要なものとなってきています。

「6月18日に地震が起こった時、マンションに住む防災リーダーなど44名に連絡をしました。多くの防災リーダーは『連絡せなあかんかった』と気づいてくれ、

日頃の訓練の重要性を実感する機会になりました。また、マンションに住む多くの方に防災リーダーになってほしいですね。」(小池さん)

●自助と共助で大幅に減災できる

大規模な災害が発生した際、被害を少しでも減らすためには、自分で自分の家族を守る日ごろからの備え(自助)が基本です。これに加え、隣近所など住民同士で手を取り合い、支えあう体制(共助)を作っておくことで、さらに被害は小さくなります。これまでの防災訓練で学んだAEDの使用法や三角巾の結び方を覚えていると自信をもって人を助けられます。

また、一部のマンションでは災害が起こった際に、部屋の状況がわかるよう「無事です」「ひと声かけて」の表示物をドアに取り付けるなどの安否確認の取り組みをしており、今後、堀江地域の訓練でも取り入れていきたいと考えています。

「地域のつながりは、第一に防災からとわれています。防災訓練をきっかけに災害が起きる前の、日ごろの近所づきあい、つながりをつくっておくことが、いざという時の助けになります。力を合わせて地域の防災力をアップさせましょう。」(阿部さん)



堀江連合振興町会
災害救助部長

小池 俊雄さん



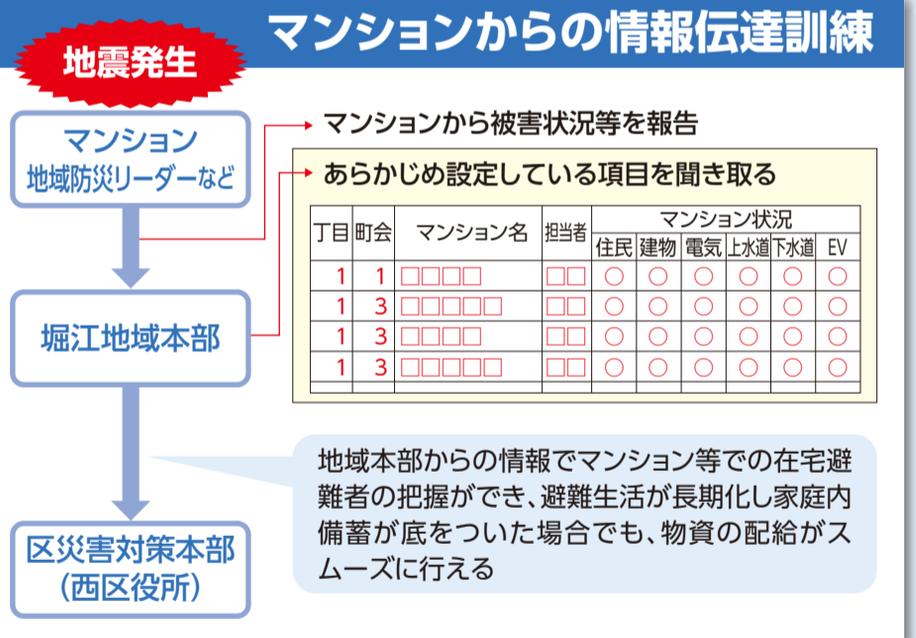
避難用マグネット・リボン

堀江地域防災訓練の流れ



※堀江小学校(災害時避難所)が当時工事中のため堀江会館で実施

マンションからの情報伝達訓練



地域本部からの情報でマンション等での在宅避難者の把握ができ、避難生活が長期化し家庭内備蓄が底をついた場合でも、物資の配給がスムーズに行える

問 区地域支援課(防災) 電話06-6532-9972 ファクス06-6538-7318